大阪市教

2024年 3月7日
VOL. 611
（一部30円。購読料は組合費に含む）

万博ストップ府民大集合　記事裏面

◇学級開き講座　4月5日
◇しんかんフェスタ
4月20日（土）13時30分
大阪市教育会館

発行　大阪市学校園教職員組合　大阪市中央区法円坂1－1－35（大阪市教育会館内）
TEL 6910-8700 https://osaka-shikyo.org/
FAX 6910-7990 E-mail o-sikyo1@sea.plala.or.jp

世界、日本「歴史的な賃上げ」組合たたかい要求実現

春闘宣言集会

大阪労連・大阪市地区協議会「春いちばん春闘宣言集会」が2月29日に行われ、全労連・黒澤幸一さんが「たたかってこそ労働組合　ストライキはなぜ少ない？米国労働運動から何を学ぶのか」のテーマで講演しました。

23年春闘で埼玉県の金属加工会社の労働組合が、ストライキと8回の団体交渉で大幅な賃上げ回答を勝ち取った事例を紹介しました。

24年春闘では以下強調しました。物価高騰と「四半世紀」におよぶ実質賃金低下を踏まえ、生活改善が実感できる「歴史的な賃上げ」の実現をめざす。①ストライキ②統一闘争③要求での仲間づくり、この3点の実践で「たたかう労働組合」を強くし、要求実現を手繰り寄せる。職場や地域で自ら声を上げれば、変えられると信じることができる組合員を増やし「強い労働組合」をつくる。

「主要国で、公務員のストライキ権の制約があるのは日本とアメリカ。しかしアメリカでは19年に教員3万人が『賃上げ』などを求めてストライキを行うなど、世界中で公務も民間も労働組合のたたかいに火がついている。日本でも公務員の『労働基本権の回復』のたたかいが必要」と語りました。

大阪市教への新加入は23年度26名（2月現在）。新加入の組合員は、さまざまな要求実現を求めています。「スクール・ソーシャル・ワーカーが会計年度任用職員ではなく、正規職員になることを強く願っています」（SSW）。「組合に入ろうと思ったきっかけは、教員の勤務環境を本気で改善したいと思ったからです。自分や家庭を犠牲にすることなく勤務できる、持続可能でやりがいのある環境を作りたいです」（中学校）。加入用紙に「労働者としての権利がきちんと認められる大阪市になってほしいです！」と記入（小学校）。

大阪市教は大阪市で働くすべての教職員の「要求実現」のため、支部や専門部の取り組み、4月の「新歓企画」などに声をかけ仲間を増やします。

市教協　賃金・権利復元　講師2級適用

大阪市教職員組合協議会（市教協）は2月22日労働条件交渉を行いました。

講師の教育職給料表2級適用が、札幌、名古屋、さいたま、川崎、横浜、相模原、浜松、静岡、広島市で行われていることが交渉で明らかになり、大阪市で直ちに適用することを求めました。

妊娠障害休暇は京都府で3週間、14日間が大阪府・兵庫県・滋賀県・神奈川県・堺市、10日間が東京都・和歌山県、奈良県7日となっています。権限移譲以降要求している「14日間に戻す」ことを求めました。

再任用給料月額（教育職2級）が7割に達していない問題、主務教諭選考不合格者の問題、「ケア労働の賃上げ」が反映されていない幼稚園給料表の改善、権限移譲に際しての「地域手当引き上げ分を相殺する」ための教育職給料表の「減額」の復元を要求しました。教員復職支援事業が「休職者が円滑に職場に復職できるような仕組み」かを検証し、休職者の人権を守ることを新規に要求しました。

2・11集会　官民一体の朝鮮人虐殺　歴史が伝わっていない

第58回「建国記念の日」不承認2・11大阪府民のつどいが2月11日開かれました。

国立歴史民俗博物館教授、高麗博物館長を歴任した新井勝紘さんが「関東大震災100年を経て―絵巻に描かれた現代への教訓―」を講演しました。

「朝鮮人や中国人、社会主義者の虐殺が百年たって明らかになったのか。いまま後退している。正当防衛だったと堂々と発言する人も。歴博の展示も虐殺『6千人』が『多くの』となった。国会で政府は『資料がない』と答弁している」と批判しました。

ネットオークションで「関東大震災絵巻1・2　大正15年肉筆　淇国」を21年に落札。

虐殺絵が含まれていることは、家に届いてから知りました。

青い服を着た朝鮮人とみられる人たちが、槍や刀を持った軍人、警察官、自警団とみられる多くの人に襲われ、頭や肩、背中から血を流して倒れている場面。巻物の「自序」は「流言蜚語は興奮を極めつつ市民の神経をなやまし、武器を提げ」「省慮の念を促し、或いは後世、祈念の一片と為す」とあります。

「虐殺絵」から読み解くこと、①虐殺は公然と行われた、②官民一体の行為、③流し続けたマスコミの流言蜚語、④地域でのタブー視、⑤歴史として伝わっていない、⑥「虐殺」に触れない、消える、⑦あえて描いた画家がいた、⑧なぜ書いたかを問うべき、汲むべき、⑨官の責任と民の責任、⑩民の差別意識の克服、を指摘しました。

欠員補充　特別専科教諭　24年度小50名、中15名

大阪市は2月8日市長会見で「本務教員による欠員補充制度の創設」を発表しました。法に基づく定数に加えて市独自に本務教員（特別専科教諭）を25年度までに小学校100名、中学校30名配置します（配置校は定数を上回る配置となる）。年度途中に欠員発生校に勤務先を変更します（年度末まで「兼務発令」）。

欠員が小学校53、中学校11（23年11月1日）の状況のなか大阪市教は、「『学校が崩壊』する前に欠員解消」を要求してきました。「教員不足」の問題は、「教育予算不足」の問題であり、国の公務員総人件費削減・教職員削減のもとで、定数内講師を多数配置し続けた結果によるものです。欠員補充のためには本務教員を増やす必要があります。

新規採用者の一部が「特別専科教諭」とされること、年度途中で「兼務発令」されることによる問題が生じないようにすることが求められます。その後の人事の取扱いも、「本人の希望尊重」で慎重に行われなければなりません。

大阪市教は今後学校園からの疑問や不安にもとづき引き続き交渉・協議を行います。

人事異動基準の交渉＝2月5日

年度末人事内示苦情相談
3月12日（火）18時
大阪市教育会館

仲間が増えた！

仲間が30人増えた　しんかんの取り組みで声かけを

今年度も終わりが近づいてきました。この1年で約30人の仲間を迎えることができました。パワハラをはじめとする相談、学習会や交流会への参加、職場の仲間や知り合いからの誘われて、さまざまなきっかけで加入を決意されました。

さて、新年度のとりくみも始まっています。学級開き講座、しんかんフェスタ、教採突破講座。職場や知り合いの方だけでなく、新しく来られる方にもまず声をかけましょう。そして話の中で、ぜひ組合の存在を知らせ、講座や新歓行事のお誘いをしてください。

あなたの職場や周りの人からまず1人、仲間を増やしましょう！

教え子を再び戦場に送るな！